

漆芸美術館だより



第29回飛翔する輪島の漆芸作家たち—全国展入選作品—より
水尻清甫《沈金箱「波の華」》 2024年 第41回日本伝統漆芸展 MOA美術館賞

104

第29回 飛翔する輪島の漆芸作家たち—全国展入選作品—
所蔵作品紹介—チョウのいる景色—
2025年度寄贈作品紹介／寄附のお礼
友の会 秋季見学会実施報告
イベント情報

他

2026年2月21日発行

第29回 飛翔する輪島の漆芸作家たち―全国展入選作品―

会期 2026年2月21日(土) ～ 4月19日(日)

令和6年能登半島地震から2年余りが経過しました。あの日以来大きな変化にさらされた輪島の漆芸作家たちも、かつての営みを取り戻そうと、懸命に創作活動に励み続けています。全国規模の公募展入選作家による近作を紹介する本展覧会もまた、大災害を経て3年ぶりの開催となりました。今回は令和4・5・6年に入選を果たし、2024年1月1日時点で輪島市内に在住した作家、34名による作品展示を行います。

水尻清甫氏による《沈金箱「波の華」》(表紙)の初出展覧会、第41回日本伝統漆芸展は輪島巡回展として当館での開催が予定されていました。震災により開催直前に中止が決定されました。輪島における本作品の公開は本展覧会が初めてとなります。甲面には太さに変化を加えた曲線を連ね、その合間に青海波の帯を伴って荒波のうねりとなります。これらは彫り溝に白漆、さらに銀粉を充填し研ぎ出した沈金象嵌によるもので、黒漆地とのモノトーンを効果的に引き立てます。十六角の側面には、強風に吹かれて舞い上がる能登の冬の風物詩・波の花のモチーフが配され、激しく打ち寄せる怒涛に白く儂く

明滅するようです。

山元健司氏による《凍てつく日》(図1)は能登半島地震の余震が続く厳冬の日々のかな、描かれた作品です。青色の色漆を研ぎ出し、散らばったパズルのピースのように錫板を貼った画面から、凍り付くような寒空に大地が揺れ動き、至る所に亀裂の走る光景が想起されます。俯き手を合わせる人物の姿に自らの祈りを重ね、復興への希望をこれからの物語に託しているのでしょう。

大角裕二氏は《蒔絵六角箱「夕潮」》(図2)において、輪島市内の鴨ヶ浦から望む夕方の情景を描きました。災害により様変わりしてしまっ

た風景のなかに、とどまることなく淡々と続く潮の流れを見出し、自らも歩みを止めず生きる決意をにじませています。揺らぎ、きらめく潮は赤色の乾漆粉を蒔き付けて研ぎ出し、白蝶貝、アワビ貝、夜光貝の各種の貝を用いた螺鈿をアクセントとしています。会場では会派を越え、多様に展開する美と卓越した技をご覧いただけます。ぜひお運びください。〔寺尾藍子〕



図1 山元健司《凍てつく日》
2024年第62回日本現代工芸美術展
写真提供：
一般社団法人現代工芸美術家協会



図2 大角裕二《蒔絵六角箱「夕潮」》
2024年第71回日本伝統工芸展

●アーティストトーク
日時.. 3月29日(日) 13時30分から
講師.. 大角裕二氏(日本工芸会正会員)
会場.. 講義室 **聴講無料**

第43回日本伝統漆芸展レポート

1月14日から1月19日まで東京の日本橋三越にて公益社団法人日本工芸会主催による「第43回日本伝統漆芸展」が開催されました。1月14日の授賞式には当館館長の山崎剛が出席し、奨励賞石川県輪島漆芸美術館賞を受賞された三好かがり氏へ賞状を授与しました。

例年であれば輪島漆芸美術館へ巡回する展覧会ですが、今年は館の修繕工事の見通しが立たず、安全を考慮し開催見合わせとなりました。みなさんにご覧いただけず大変残念ではありますが、今は環境を整えることに専念したいと思います。



日本橋三越での様子▲▶



巡回先：高松市美術館

2026年3月14日（土）～3月29日（日）

所蔵作品介绍

— チョウのいる景色 —

チョウは1年を通して見かける機会がありますが、春の季語にもなっており春の植物と共に思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。また、絵画や工芸品のモチーフとして古くから描かれており昔から身近な昆虫であることが伺えます。

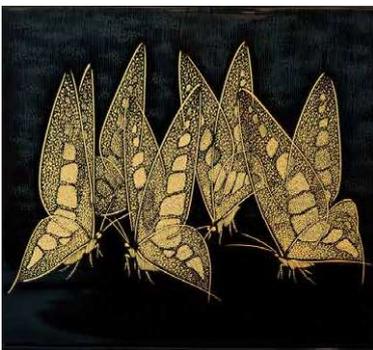
今回はそんなチョウを描いた《春ざれ沈金手筥》をご紹介します。作者の道上正司（1955-2010）は輪島生まれの作家で主に日本工芸会で活躍しました。《春ざれ沈金手筥》は筥の各面にアオスジアゲハと春の野花を分けて構成しており、強弱のある線彫がチョウの軽やかさを感じさせます。アオスジアゲハは本作においては沈金の点彫、線彫を用いて金色で表現されていますが、実際は黒い地色の翅に水色の帯状の模様が特徴のアゲハチョウ

震災により変わりゆく景色を見つめながら、能登の風物に心を寄せてきた作家たちの作品を紹介します。

です。群れでストロー状の口（口吻）をのぼしているのは主にオスにみられる吸水の姿だそうですね。

アオスジアゲハは全国的に観察できる種で、輪島市内においても観察できます。今回は輪島市門前町で撮影された写真を天野勝廣さんからご提供いただきました。「最初は花と木が珍しいので車を止めて見ていました。アメリカカテマリシモツケの吸蜜の様子です。」とのコメントもいただきました。今年も春の訪れとともに観察出来るかもしれません。ぜひ探してみてくださいね。

「小島美里」



道上正司《春ざれ沈金手筥》
1985年（上：全体、下：部分）



撮影＝天野勝廣 2022年5月25日
輪島市門前町道下、
能登サンセットライン入口付近にて

▼2025年度寄贈作品紹介

2025年度は1件の寄贈がありました。
ご支援を賜り感謝申し上げます。

・赤の痕跡／田中信行 田中信行氏寄贈

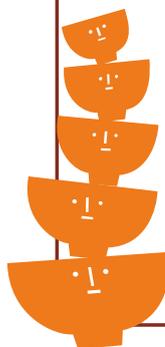


美術館の近況

大阪・関西万博に出展されていた
輪島塗大型地球儀
「夜の地球 Earth at Night」
が帰ってきました！



1階地球儀展示室でご覧いただけます



輪島漆芸美術館への寄附の御礼

当館へご配慮いただきましたこと、職員一同御礼申し上げます。
寄附金は震災復旧等、美術館運営に有効に活用させていただきます。

※公表の承諾を得た方のみ受付順に掲載しています。[お名前・団体名/金額]

- ・株式会社 HYTEK / 118,621 円
- ・沖縄県立浦添工業高等学校 / 50,000 円
- ・第 55 回ヨコスカ平和美術展実行委員会 / 72,844 円
- ・江戸千家新潟不白会、煎茶道東阿部流新潟支部 / 308,589 円

2026年2月10日現在

ミュージアムショップからのお知らせ

新グッズがたくさん登場しています！



缶マグネット



ボールペン



ポーチ



手ぬぐい
(復刻)

▼輪島漆芸美術館友の会 秋季見学会実施報告

令和7年10月3日（金）、友の会会員24名のご参加により富山県南砺市及び能登方面へ日帰り見学会を実施しました。

最初の見学先は南砺市立福光美術館です。「城端時絵450年 小原治五右衛門と城端のあゆみ」を鑑賞。当代小原治五右衛門氏のご厚意による作品解説には会員一同感激です。独自の伝統を紡ぎ続けてきた城端時絵の歴史をより一層堪能できました。

昼食は南砺市の緑に囲まれた中でのフレンチで、会員同士の楽しい語らいの中、美味しく味わいました。

次は石川県七尾美術館で、開館30周年



南砺市立福光美術館



石川県七尾美術館

記念・震災復興祈念「長谷川等伯展」帰ってきた国宝・松林図屏風」を鑑賞。地震後初の展覧会、しかも人気の「等伯展」ということで混雑を避けるため、まずホールにて学芸員の北原洋子氏に展覧会の見どころなどをご説明いただき、その後展覧会会場へ。皆さま思い思いのペースで鑑賞され「等伯」に心を馳せていました。

最後は、穴水町の能登ワインの工場見学です。高台から眺める広大なブドウ畑に驚きつつ、ワイン造りの工程を楽しみながら、お気に入りのワインを見つけた様子でした。

慌ただしい日程でしたが、参加者の方からは「美術館鑑賞と美味しい昼食！とても有意義な時間だった」とのご感想をいただき実りある見学会となりました。

【川上千鶴子】

▼友の会会員募集のお知らせ

「漆の文化や、輪島の漆芸、輪島漆芸美術館にもっと親しみたい」そんなご要望をお持ちの皆さま、魅力的な特典満載の「石川県輪島漆芸美術館友の会」に入会しませんか。

ご来館時に入会金を添えて入会申込書を提出することで、簡単に入会できます。ぜひご利用ください。

主な会員特典

- 特典1 招待券が進呈されます。
- 特典2 展覧会の入館料が、会員及び同伴者2名まで団体割引となります。
- 特典3 相互割引提携館*主催の展覧会入館料が、団体割引となります。
*石川県立美術館、石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県能登島ガラス美術館、珠洲市立珠洲焼資料館、輪島市柳どの庄禅の里交流館
- 特典4 「友の会だより」「漆芸美術館だより」ほか美術館情報等の提供が受けられます。

会費

- ・個人会員（1年） 1,000円
（有効期限：4月1日～翌年3月31日）
- ・個人会員（2年） 2,000円
（有効期限：4月1日～翌々年3月31日）
- ・家族会員 2,000円

代表者と生計を共にする2名以上のご家族でご入会いただけます。
（有効期限：4月1日～翌年3月31日）

- ・賛助会員 5,000円
特に友の会の発展に協力する個人及び団体でご入会いただけます。
（有効期限：4月1日～翌年3月31日）



令和8年度は干支にちなんだ会員証
柿木章「春の鼓動」(部分)1990年

イベント情報

石川県輪島漆芸美術館友の会 水引体験教室 —端午の節句ミニフレーム作り—

3月14日(土)

時間 10:00～12:00
講師 美月彩里氏(水引作家)
会場 講義室
参加費 400円
定員 15名【要申込み】
申込み ☎0768-22-9788



輪島塗技術保存会 令和7年度伝承者養成事業 成果発表展

3月7日(土)～10日(火)

時間 9:00～17:00
会場 講義室
入場無料

国の重要無形文化財保持団体である輪島塗技術保存会は、技を継承する「伝承者」育成のため研修事業を行っています。令和7年度の成果作品を展示いたします。



▲昨年の成果発表展の様子

2026年度は修繕工事を予定していますが、現時点での詳しい日程は未定です。休館時期や展覧会については決まり次第公式ウェブサイト、SNSにてお知らせいたします。ご迷惑をおかけしますがご理解のほどよろしくお願いいたします。

施設情報

開館時間 9:00～17:00(入館は閉館の30分前まで)

休館日 展示替え期間、年末休館
※その他、修繕工事のため臨時休館となる可能性があります。
来館前には当館公式ウェブサイト、SNSにてご確認ください。

交通案内 *所要時間は道路状況により前後する可能性があります

- のと里山空港から 車(約30分)
- 金沢駅から 北鉄バス輪島特急線を利用
(輪島ふらっと訪夢 輪島駅前まで約3時間)
- 金沢市内から 車でのと里山海道を利用(約2時間)
- 「道の駅・輪島ふらっと訪夢 輪島駅前」から 徒歩(約25分)

入館料

	個人	団体(20名以上)
一般	630円	520円
高大学生	320円	210円
小中学生	150円	100円

〒928-0063
石川県輪島市水守町四十苅11番地
TEL 0768-22-9788
FAX 0768-22-9789
www.art.city.wajima.ishikawa.jp

